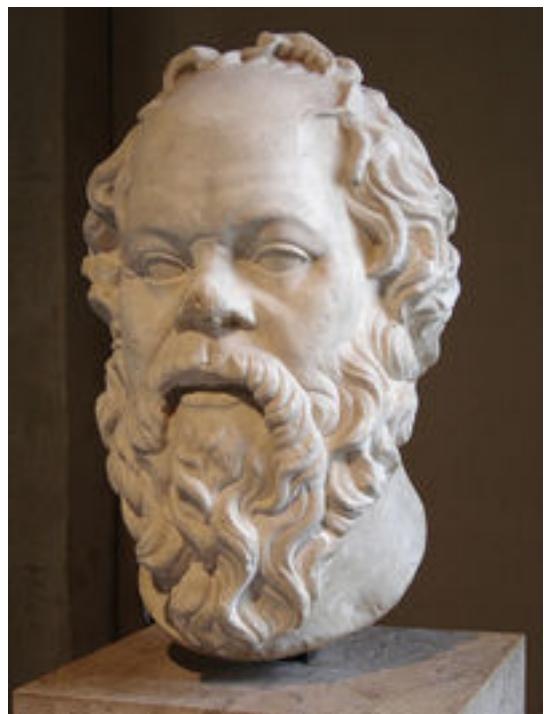


本質(essence)とは何か : 予備的考察

「本質」の起源

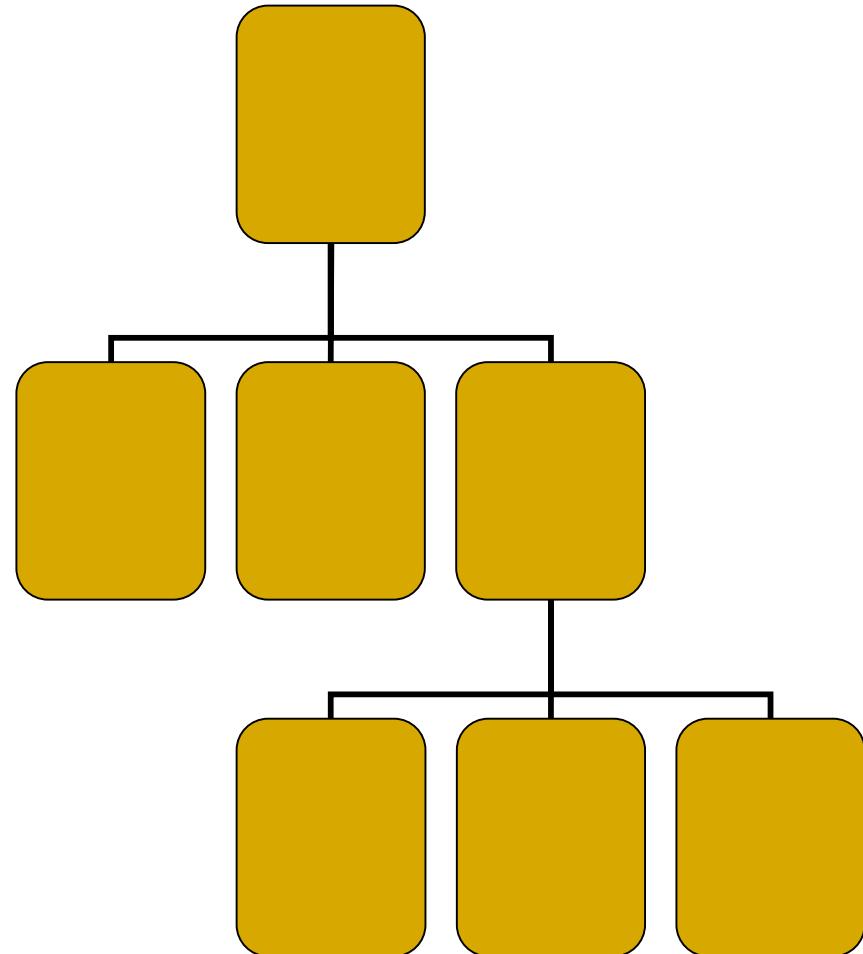
—ソクラテスの問い：「何か」問題—物事・事柄の定義・イデアを求める問題



■ソクラテス(469-399BC)

「本質」の役割(1)

一分類の「階層化」



本質の役割(2)

—取捨選択的な思考

本質の「暴力」

—外への暴力

本質の「暴力」

—内への暴力

ネグリチュード運動へのサルトルの擁護



- サルトル(Jean-Paul Sartre, 1905-1980)

社会・政治思想(運動)における論争

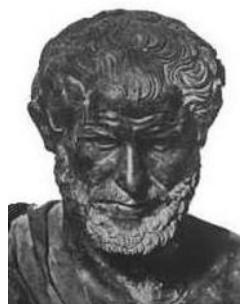
「本質」の見直し

本質主義vs反本質主義

アリストテレス(BC384-332)



出所 : <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%93%E3%83%88%E3%82%AE%EF%BC%88%EF%BC%89>



出所 : <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%93%E3%83%88%E3%82%AE>

『カテゴリー論』(1)

—「命題」とは？

『カテゴリー論』(2)

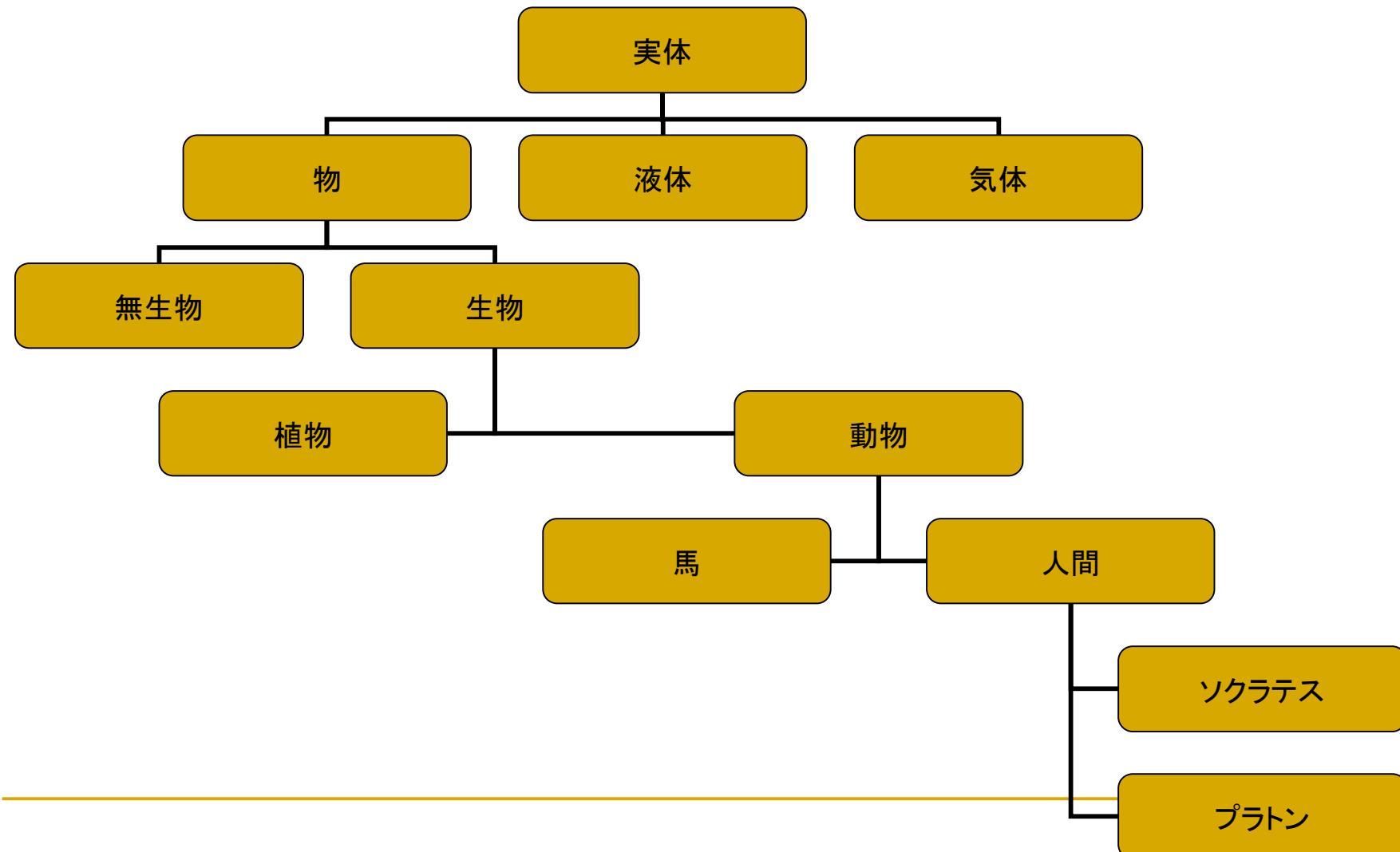
—主語・述語・最高類

「述語」に関する分枝階層構造

—「何か系列」What questionへの解答の系列

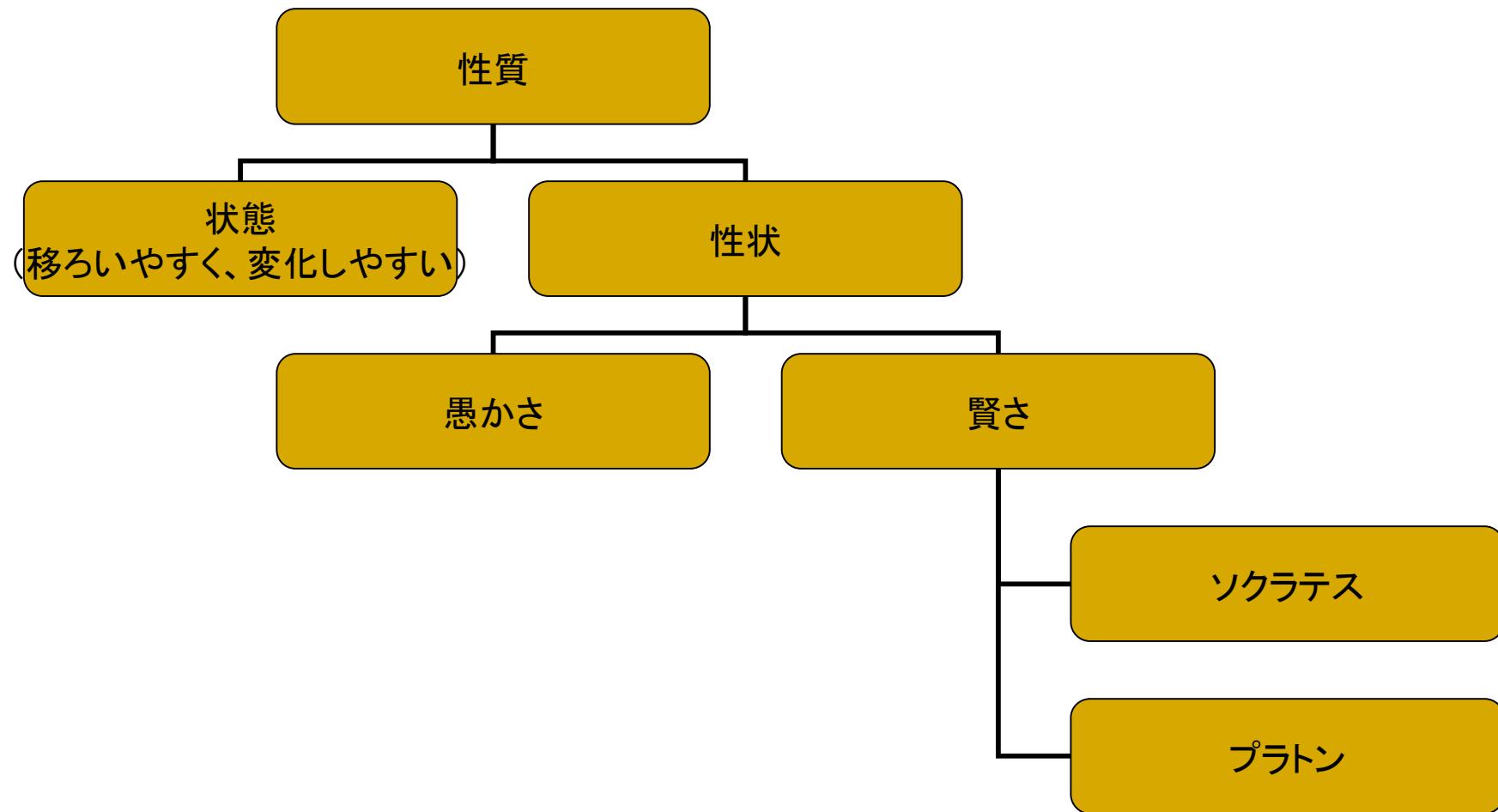
「何か」系列における所属・包含関係

線形構造から分岐階層構造へ



分岐階層構造の複数並列

「いかに」系列の分岐階層構造



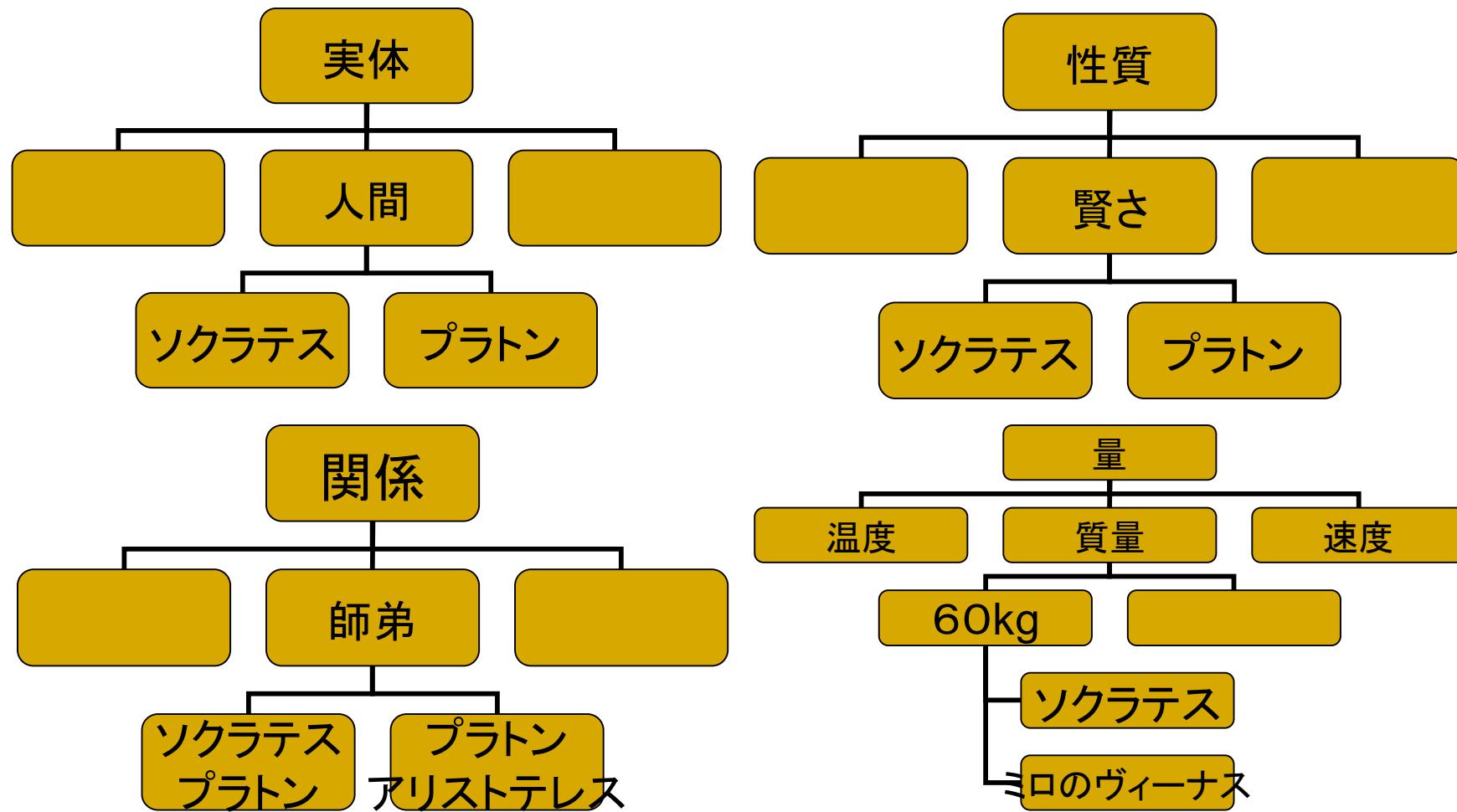
分岐階層構造の二重性と複数の構造間の排反性

様々な最高類(カテゴリー) —アリストテレスの「未完」の仕事

カテゴリー表の試み

—カント、パース、フッサー

分岐階層構造の複数並列



アリストテレスの「本質」の理論負荷性

アリストテレスの「本質」の言語表現

—to ti ein einai → essence

アリストテレスの「本質」の言語表現 —プラトンの「イデア」との違い

「何か」述語としての本質の具体例

—「ソクラテス」「人間」「動物」「生物」「物」「実体」

「何か」述語と「いかに」述語(1)

—「何か」述語と「いかに」述語の言語用法的区別

「何か」述語と「いかに」述語(2)

—個物と普遍(1)

「何か」述語と「いかに」述語(3) —個物と普遍(2)

「何か」述語と「いかに」述語(4)

—「何か」述語＝個物の「性質」かつ「クラス」／「いかに」述語≠個物の「性質」かつ「クラス」

「何か」述語と「いかに」述語(5)

—外延主義

「何か性」としての「本質」

本質のインフレ

「必然的な性質」としての「本質」(1)

—必然性・可能性・偶然性・現実性

「必然的な性質」としての「本質」(2)

—可能な性質を偶有性とし、「本質」のリストから外す

「自然な性質」としての「本質」(1) —ノモスとピュシス

「自然な性質」としての「本質」(2)

—「人為の所産であるクラスの一員」としての「性質」を、「本質」のリストから外す

理論負荷性(1)

—明示的背景(分岐階層構造)と暗黙裡の背景
('性質／クラス'・様相理論・ノモス／ピュシス)

理論負荷性(2)

—概念の理解に背景理論は不可欠

アリストテレスの本質：まとめ1

一本質 = 「必然的」で「自然」な「性質 & クラス」

アリストテレスの「本質」:まとめ2

一分岐階層構造